

中朝関係の特徴および東アジア国際秩序との繋がり

趙 軼峰（東北師範大学）

発表要旨

「東アジア」という概念はよく近代以前の歴史、特に中国、朝鮮半島と日本の関係、を議論する際によく用いられている。この時代のアジアにおける国際秩序はよく「朝貢体制」と説明されている。本文では、まず、十七世紀から十九世紀までの中朝関係におけるいくつかの特徴を指摘したうえで、当時清朝と朝鮮の関係は清朝と日本の関係とはずいぶん違うことを強調したい。その時代に、比較的平和な「東アジア」は簡単に「朝貢体制」で説明しきれないものである。さらに、本文ではいくつかの関連概念と方法論についても議論する。

略歴

1953年内モンゴル開魯県生まれ。東北師範大学歴史学学士、修士、カナダアルバータ大学歴史学博士。1984年から1989年まで、東方師範大学歴史学部講師、助教授。1989年から1999年まで、カナダブランドン大学客員教授、アルバータ大学訪問学者、講師。2000年以降、東北師範大学歴史学部教授、副学部長、明清史研究所長、華南師範大学歴史学部教授、暨南大学歴史学部教授、東北師範大学出版社学術委員会主任、歴史文化学院教授、アジア文明研究院長、《古代文明》編集長等を歴任。研究分野は明清史、史学理論、比較文明史。主な編著書に『中国古代史』（共編、高教出版社、2002、2010年版）、『明代国家宗教管理制度と政策の研究』（中国社会科学出版社、2008）、『明代の変遷』（上海三聯書店、2008年）、『学史叢録』（中華書局、2005年）、『クリントン弾劾とアメリカの政治文化』（中国社会科学文献出版社、2014年第二版）、『明清帝制農商社会研究（初編）』（科学出版社、2017年）、『＜明夷待訪録＞注説』（河南大学出版社、2017年）。訳書に『グローバル文明史』（中華書局、2006年）。その他論文約百編を発表。